

令和復刻版 「河合繁昌記」 大正中期から昭和初期

その 1、その 2（令和 6 年 12 月 25 日発行）、その 3（令和 7 年 3 月 31 日発行）

『河合繁昌記』は昭和の終わりに寿会河合支部のみなさんが、村の方に聞き取りを行い 3 冊の書籍にしたものです（昭和 62 年 3 月発行）。大正から昭和にかけて、河合のことを中心に上北山村の暮らしや歴史が分かる冊子です。

今回、民俗資料としての貴重性を感じ令和の復刻版を作成しました。村民さんから提供していただいた写真や教育委員会に保管されていた写真、ガラス乾板の写真を多用して、見ても楽しめる本になっています。当時の書かれた文章も魅力があり、ひきこまれます。

大正中期から昭和初期は上北山村にも第一次世界大戦後の好況の波が押し寄せ、大規模の白川又山自然林の開発、発電事業の進展、交通革命として自動車開通と激動の時代であった。

大正 6 年、河合区有白川又山自然林を、尾鷲の三国木材（株）へ売却。酒樽に使う木材として伐採、搬出、加工、輸送の総合体制が整い上北山村人口急増。四工場を開設、各工場間を軌道で結び、索道によって河合、尾鷲へ本格輸送始まる。（北山索道・白川又索道・尾鷲索道など）

白川又の水利を引用して大和電気（株）が水力発電開発を開始し、隧道工事、関連機材設置などで村は賑わい、大正 9 年白川発電所の上棟祭が行われ、大正 10 年には村中電灯がひかれ急速に発達した。

大正 14 年自動車はようやく上市方面から川上村柏木まで乗合が運行した。六田駅から吉野軽便鉄道で吉野口へ行き王寺へ出て奈良・大阪へ行くことができるようになった。

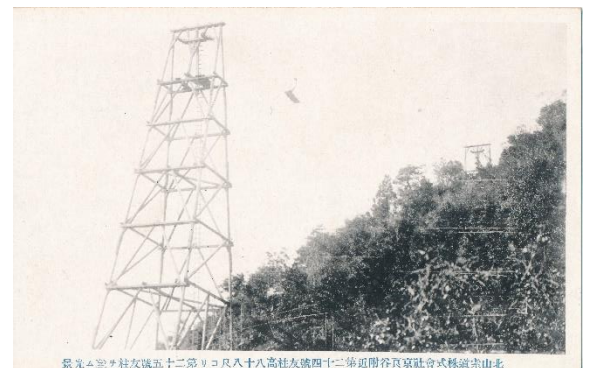
昭和 2 年北山自動車（株）創立、村内乗合バス運行。昭和 15 年旧伯母峯トンネル開通。

本誌に「奈良今昔写真 WEB」の写真を利用いただいた。
（右は一部）

令和復刻版「河合繁昌記」3 冊



工場間を軌道運搬 写真提供：永富譲氏



索道運搬風景 写真提供：永富譲氏



大正 13 年から昭和 2 年ごろの吉野鉄道
写真提供：成瀬匡章氏